

近江猿樂多賀座 創立25周年記念事業

～600年の時を超えて～

近江猿樂「みまじ座」初公演から600年
みまじ座の伝統を受け継ぎ、現代に近江猿樂多賀座が放つ

伏見御香宮

奉納公演

平成30年8月19日(日) 少雨決行

御香宮神社 能舞台

午前11時開演(公演時間約50分)

一部 小舞「七つ子」 狂言「口真似」

二部 「延年風流」えんねんふりゆう から

王の舞・七頭舞・獅子舞・風流太鼓

入場無料

主催：近江猿樂多賀座

後援：多賀町・多賀町教育委員会・多賀観光協会

協賛：御香宮神社・御香宮神社神能会



○近江猿楽多賀座とは

今日の能・狂言のルーツともいうべき「近江猿楽」の発祥の地が多賀町であることを誇りに、平成5年6月多賀町民有志で結成。今年創立25周年を迎えた。

現在、約30名の座員が多賀町を拠点に「演じて楽しい、見て楽しい」新しい猿楽の創造を目指して活動している。

<事務局：滋賀県犬上郡多賀町多賀324多賀町役場内>

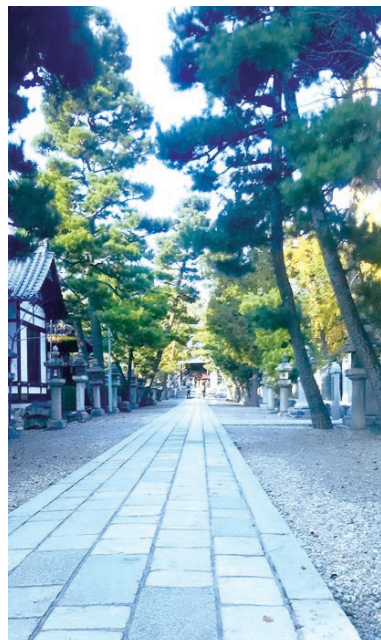
○御香宮神社と近江猿楽「みまじ座」

『申楽談儀』に「近江は、敏満寺の座、久座也」と記されている通り、近江猿楽6座のうち、「みまじ座」はもともと歴史のある座であった。

みまじ座は14世紀初めから活動していたと推測されているが、歴史上の文献に最初に出てくるのは1418年である。伏見宮貞成親王が記した『看聞御記』の応永25年(1418年)に次のように記されている。「九月十日。法安寺猿楽見物事。男共令見物。近江猿楽未満寺云々。御香宮猿楽同前。」

応永25年9月に御香宮において近江猿楽「みまじ座」が猿楽を演じたという記録である。

今年(2018年)はこの記録からちょうど600年を迎える。



<御香宮神社>
京都市伏見区御香宮
門前町174

近江猿楽多賀座創設

一一五周年おめでとうございます

二五年という永きにわたり、町内外において地道に着実に活動を続けてこられたことに対して、心より敬意と感謝を表す次第です。

創設当時、多賀町が近江猿楽みまじ座発祥の地であることは文献では示されていましたが、具体的な資料が少ないなか、みなさんが試行錯誤を繰り返しながら、「近江猿楽の復興」への思いを持って臨まれていたことをよく覚えております。

初代の座長さんが、「継続して何年も続けければ、それが伝統になる」とよくおっしゃっていました。

まだまだ、道半ばでご苦労も多いことと思いますが、今後とも、本町の伝統芸能の創造・継承・発展のため、格段の努力を賜りますようお願い申し上げます。

多賀町長 久保久良